

令和4年10月14日

由利本荘市総合教育会議

議 事 録

□日時

令和4年10月14日（金） 午後1時30分

□場所

由利本荘市役所 4階 正庁

□出席者

市長	湊 貴 信
教育委員会教育長	秋 山 正 毅
教育委員会教育長職務代理者	佐 藤 道 昭
教育委員会委員	桑 山 明 久
教育委員会委員	高 橋 重 剛

□案件

1. 報告

2. 意見交換

- (1) 「ゆりほんICT子供の学びアップデートプラン」の推進について
～令和5年度に向けて～
- (2) 部活動の地域移行に向けて
～部活動を取り巻く現状と検討課題～
- (3) 児童生徒数の推移と学校再編について
～今後の各地域の学校の在り方について～

(事務局職員)

総務部長	小 川 裕 之
観光文化スポーツ部長	高 橋 重 保
教育次長	三 浦 良 隆
総務課長	遠 藤 裕 文
文化・スポーツ課長	伊 藤 望
教育委員会教育総務課長	三 浦 雄 一 郎
教育委員会主幹兼学校教育課長	相 庭 俊 一
教育委員会生涯学習課長	長谷川 潤 一
教育委員会本荘教育学習課長	柴 田 浩 樹
教育委員会中央図書館長	木 内 華 奈
教育委員会教育総務課参事兼課長補佐兼総務班長	佐々木 夢 司
総務部総務課課長補佐	工 藤 将

遠藤総務課長

(開会 午後1時30分)

それでは、ただ今から、
「令和4年度 由利本荘市 総合教育会議」を
開会いたします。
はじめに湊市長より、あいさつを申し上げます。

湊市長

開会にあたり、一言、ごあいさつ申し上げます。
本日はご多忙のところ、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。
また、皆様には、日頃より、市政の推進に、深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
中でも、教育行政の推進につきましては、日夜、ご尽力いただいているところであり、重ねて御礼申し上げます。
長引く新型コロナウイルス感染症の影響のなか、市内小中学校においても感染者が多く確認され、大変心配しているところでありましたが、徐々に日常を取り戻してきており、各学校においても、修学旅行や学校祭などの年間事業が予定通り開催され、まずは一安心しているところでもあります。
市では、今後のウィズコロナ・アフターコロナを見据え、さまざまな分野において、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進を進めているところでもあります。
特に、教育分野においては、国が掲げる「GIGAスクール構想」のもと、ICT教育の推進を積極的に進めてまいりたいと考えているところです。
本日の総合教育会議では、多くの教育施策の中から、「ICT教育の推進」・「部活動の地域移行」・「児童生徒数の今後の推移」の三件を議題に選びました。
乗り越えなければならない課題も多くありますが、どれも非常に重要なものであると考えております。
ひとつひとつの案件について、事務局から現状や課題、今後の取り組みについて話題を提供していただきますので、皆様から様々なご意見をいただきながら、議論してまいりたいと思っております。
これからの子どもたちの未来と本市の将来を見据え、よりよい教育行政の実現につなげるため、本日は、何卒よろしく願いいたします。

遠藤総務課長

ありがとうございました。
本日は、次第にしたがいまして、はじめに、教育長より報告をいただいた後に、教育委員会事務局より3件の話題を提供していただき、話題毎に、市長と教育委員の皆様による意見交換を行いながら、

進めてまいりたいと考えております。

皆様におかれましては、ご自由に忌憚りの無いご意見を出していただきたく、よろしく願いいたします。

それでは、以後の進行については、市長に行っていただきます。市長、よろしく願いいたします。

湊市長

それでは、次第に従いまして、進行してまいります。
2の「報告」を教育長より、お願いいたします。

秋山教育長

本日は、よろしく願いいたします。
今週から、小中学校は、後期の教育課程に入りました。これから3月の卒業式、修了式に向けより充実した学校生活を送ることができるよう、市全体で、学校を支援、応援してまいりたいと考えております。なお、中学校では、今年度から公立の高校入試が変わります。これは、数十年ぶりに大きく変わりますが、今まで、1月末にありました前期の入試がなくなります。全員が、3月に5教科の同じ試験を受けることとなります。いままでは、前期の子供たちは、3教科と面接がメインで、面接の指導練習のために正月明けから一生懸命指導してきたわけですが、そのようなかたちがなくなり、3月に同じ試験を受けることとなります。出願には、学力や運動、分野の専門性など自分の特徴をいかした特色選抜というものと、いままでの一般選抜のどちらかを受験するかたちとなり、中学校でも入試に向けこれからは、指導について大きく変わるわけですが、今年は1年目なので、具体的にどこまでどのようにやっていくのかは、試行錯誤しながらとなりますが、中学校でも一生懸命考えておりますので、生徒や保護者と不安が大きくなるよう教育委員会でも各学校をフォローしていきたいと考えております。
報告は、以上です。

湊市長

ただ今、教育長より昨今の話題について報告がありましたけれども、皆様の方から質問・ご意見ありますでしょうか。

【質問、意見等特になし】

湊市長

そうすれば、3の意見交換の方に進めさせていただきます。
ひとつめの話題提供といたしまして、「ゆりほんICT子供の学びアップデートプランの推進について」の説明をお願いいたします。

相庭主幹
兼学校教育課長

【（１）「ゆりほんＩＣＴ子供の学びアップデートプランの推進について」について説明】

湊市長

説明が終わりましたが、皆様から順番に、ご意見やご質問をいただきたいと思います。

はじめに、教育長お願いします。

秋山教育長

それでは、私からＩＣＴについて少し話をさせていただきます。このＩＣＴを進めるにあたって、私自身が考えていること、ひとつは、環境整備というものを進めていくことに対しては、由利本荘市は、産学官の連携が非常にできていて、本当に大きな強みであり、アピールしていきたいところであり、有効に使っていきたいと考えております。それをどう進めていくかをいろいろこれから議論していかなければならないと思っております。もうひとつは、タブレットは、どこの学校でも入るが、それをどう使うかを共通理解図りながら、意識していく必要があるんじゃないかと思えます。私は、子供たちは、基礎学力を高めていくのは当然大切なんだけれども、でも、いままでは、下位の子供を伸ばすことにすごく意識がいて、上位の子供を伸ばすまで力がなかなかまわっていなかったのかなという現実があると思えます、それが、タブレットを使うことによって、幅広く対応できるのではないかと思います。自分の好きな、やりたいところを徹底的にやれるということがこれからの学習の強みになっていくのではないかというのが、まずひとつ思うところです。もうひとつは、子供が自分たちの学びを発信できる。いままでは、評価が、先生や親からの評価だったものが、よりもっと広いところから評価してもらえる喜び、学びの喜びみたいなものを味わうことができるような方向性にこれを進めていくことによって進んで行くのではないかと思います。

今回、県立大学生に入ってもらいましたが、今まで学校は、いろいろな人がだんだん関わりを広めてきました。たとえば、保健の先生がいたり、図書の先生がいたり、給食の先生がいてというようなだんだん広がってきて、それが、図書館に広がったり、支援員に広がったり、それから、精神的な悩みがあったときに相談できる先生が入ってきたりと広がってきているのですが、情報支援の方もこういう風にして、学校に入ってきて、いろいろな多面的な支援の中で、教育が成立していく形に変わっていくのではないか。その辺を丁寧に今後進めて行ければと思う。

最後にその中で子供たちが自分をいかに出して成長して、社会に貢献していけるかというところを探していけるような学校教育を目指していくひとつの大きな足がかりにしたいと考えて、ＩＣＴの支

援については、力を入れていきたいと考えております。

私からは、以上です。

湊市長

それでは、次に、佐藤教育長職務代理者をお願いします。

佐藤教育長職務代理者

私もこの件に関しましては、様々な考えを持っておりましたが、まず、他の場でも確認していなかったことをひとつ確認したいのですが、この支援員の費用については、どのようになっているのかと
思っておりました。というのは、サポートで先生が入っておりますが、市の方で、費用等を支援しているんですが、そちらは、どうなっているのか、この後、人数が増えた場合には、そういう場合どうなるのかなという点がひとつでございます。それは、後ほど、ご回答とご考察をお願いいたします。

このICTに関しましては、本当に必要なことといたしますか、ICTデジタルがあればこそ、伸びる子もいるし、また逆に無くても伸びる子も、アナログでもいける子もいるんですね。その両方に対応するためにこのデジタルを当然進めるべきことでありますし、今回のコロナとさらに、不登校児に対する対応というのも、これもあの、コロナの時に休んだときに通信に寄りまして勉強ができたと言うのがあったものですから、この対応というのもひとつとして必要な情報であると思っております。

ただ、この機材に関しまして、この間ニュースと新聞にもなっておりましたが、まだ始まったばかりで少ないんですが、これから、故障や事故により損失が出てくる可能性が多々あります。この後、それが増えた場合には、どのように対処していくのかというのまで、考えていかなければならないとは思っております。

それから生徒に対するサポートとして、また、必要な教材として大事ですので、環境に関しまして、各学校を実際にまわってみて思うのは、思ったよりも繋がらない、動いていない、動きが遅い、それは通信速度ですね、それがありまして、かなりのトラブルが出ております。これに関しましては、支援員の人達がちゃんと教えたりしてくださっておりますので、ありがたいんですが、使ってみてわかるこういう環境の不具合というのも、また見直していただければと思っておりますので、これもまだ始まったばかりですので、これからじっくりと情報収集しながらやっていきたいと思っております。

最後にですが、それぞれの情報を持ってきてそこで仕事をするのは、今のタブレットで可能なんですけど、例えば、共有してそれで、ものを作っていく、この間、西目中学校で大きい新聞を作っておりました。これを作る際に、たとえば、作業のデータを管理するサーバー等でできるのかと思えば、そうではなくて、それぞれタブレッ

トやメモリを持ち寄ってそこに集まってやらなければ仕事ができないという状況に、今、なっております。その辺も、セキュリティも考えながら、考察しながら、そういう情報共有の場を作ることも必要となってきますし、それは、学生のみならず、教師も報告書等の共有、いわゆる働き方改革の一助にもなります。煩雑な報告を簡単にして、そこで、教師間での共有ができるという場にも繋がるのではないかと思いますので、そのところもよろしくお願ひしたい、考えていきたいと思っております。

湊市長

はい、ありがとうございました。

質問について、まず今、答えてもらいます。お願いします。

相庭主幹
兼学校教育課長

ただいまのご質問にお答えしたいと思います。

支援員の費用についてですけれども、いわゆる学生のバイト料という感覚で言いますと、時給は、千円です。そして、こちらの3にあたります「ホローキューブ」秋田県立大学認定ベンチャー企業ですけれども、学生の雇用、そして労務管理等全てお願いしている状況です。支援員が増えることによって、それだけ、費用がかさむということは特にございません。つまり学生ですので、それぞれ時間割があって、そのの抜かれる時間に、例えば、自分の車で、あるいは、公共交通機関を使って、移動に係る費用は、別途になりますけれども、シフトを組んで行きますので、たくさんの学生がいるほうが柔軟に学校の希望するところに行けると言う、そういったところから、人数が増えたからといって、一概に費用が増えるものではないということをお伝えしたいとおもいます。

湊市長

はい、いろいろとご提言等々ありがとうございました。最後にまた、皆さんからご意見いただいてからまた、そのあと、いろんなお話しについてやり取りする時間を設けたいと思っておりますので、先の方に進めさせていただきます。

それでは、桑山委員よりお願いいたします。

桑山委員

ただいまの報告を聞いて、とても進んでるなど、タブレット端末をかなり幅広く使うようになってきたなということがわかりました。何よりも由利本荘市に県立大学があって良かったなど、こういうICT支援員が、これだけ、今30名と聞きましたけれども、派遣できるのは、まさに大学があるおかげだなあと言うことを改めて実感しました。ただ、色々発信するスキルとしてそれを出していけるのは、とてもいいのですが、その基本になるですね、そのICT、

インターネットで発信する前のですよね、試作、思考、そういった何を発信するのかっていう、最近僕は、患者さんがいろんな病気、あるいは薬について、いろんなことを言うてくるのですが、根拠のないことがかなり多いんですね。ですから発信する側の情報の中身の責任を持って、発信するための思考、考察あるいは根拠と言うものをこういった便利な機器を使いこなす根底にやはりそれが必要なんだと言うことは、再三指導が必要なんだろうなと思います。

それから、医者立場から言うと、全国の学校保健会で、こういったコンピューターの機器と目の病気と言うことで、発表がありましたけれども、その辺の健康、特に目ですね、そこを損なわない使い方の指導ですね、これも当然やっているとありますが、繰り返し、説明しながら、日本の小中高生の視力低下が年々進んでいると、視力1.0以下の子供が年々多くなっているという、そういう眼科からの報告もありますので、その原因として、こういったコンピューター画面が全てではないとは思いますが、そういった使い方、健康に害のない使い方というものも、繰り返し注意喚起をしてもらいたいと思います。それと、今話を聞いていて、すごい妄想が膨らんだんですが、コロナ禍で大学の講義がオンラインでっていうことで、オンラインで参加するためには、認証されて、そこにだけ行くと言うことになるのですが、その認証が、そのうちお金で売られるようになんじゃないかなと、ある有名な予備校の先生の聞くのにこれだけ払えば聞けますよだとか、それで妄想が膨らむのですが、ある教師が授業を担当した場合に、よくできる子っているのが5割だとするけども、別の教師が担当すると8割がよくできるという、そういった、これは予備校なんかでカリスマ講師とかですね、その先生の授業を聞くと成績がぐんとアップするなんていう話を、本当か嘘かよく聞くんですが、例えば、あの先生の授業を聞きたいとかですね、あるいは、あの先生というのは、同じ学校ではなくて、有名な私立校、灘とか開成とかですね、その先生の授業をお金を払えばアクセスできるとかですね、お金儲けを考えたらもうすぐそれで、いろんな講師の先生と契約をして、1時間1万円出したらこの先生の授業が聞けるよとかですね、そういう時代にもなっている、これはまた、公立の学校も巻き込んでですね、有料配信とかですね、そういった世の中も来るのかなあという、そういう妄想もしながら、あるいは大学の講義ですね、昔は、偽学生とって、どうしてもあの大学のあの先生の講義を聞きたいという、その学生になりすまして入って行って聞いたと言う話もよく聞きますが、今はこういったネットの中では、なかなか入り込めないとすると、それが、金銭で、受講券と言いますかね、入る権利が売られる時代も来るのでは、すみません、今日の由利本荘市のあれとは、関係なくなりましたが、すごい時代になってきたなということを考えながら、その中で由利本荘市は、地道にですね、独自でできる強みを活かした展開をしているということでも今感心しながら聞いていたところで

す。

湊市長

はい、ありがとうございました。
それについても後でいろいろ議論できればと思います。それでは次に小坂委員よりお願いいたします。

小坂委員

はい、1年前に比べますと、一昨年初めてドローンを紹介しながら各学校をまわった時に比べますと、本当にどの学校もよく使いこなしているなあということを感じる、今年になって、ほんとにこの1年でこれほどに飛躍できるのかと思うほどに、各学校で研修を深めて子供たちもよく使っていました。私が一番驚いたのが、実験している時にその実験の現象の変化を記録している子供たちが、実験している子供以上に鋭い目で、そしてその瞬間を記録しようとして、にらみつけて観察している、そんな、熱い実験の姿をみてこんな風にも活用できるんだなあということで感激した覚えがあります。また、小学生は、私は理科でしたので、観察日記を書くときに朝顔の葉をいろいろな角度からシャッターを押してまして、それを後で見直しをしてそのなかで自分が一番心がときめいたところをカードに記載するというので、今までに観察記録で見たことのない角度で、そしてアップの状態を観察記録カードを書いているという、そういう子供もいました。こんな風にして、自分の学びをきちんと記録してそれを小学校中学校とデータ化してその中から自分の成長を見つめながら自分自身の良さがわかってきて、そして、それが力となって未来の由利本荘市を支えていく子供たちが育つのではないかなということを見ると心がときめくような思いで授業を見させていただいております。そんななかで、あと今一番私のようにICTが苦手を使いこなせないそういう人間にとって市役所の玄関の市長様のテレビで見ましたけど本当に嬉しい機器の活用の仕方でも使える、何にもわからない人でも行くと使えるそういう環境がやっぱり欲しいのではないかと感じました。特に小学校のタブレットは残念ながらスペックが非常に低くて、そして一斉に電源を入れると操作の遅い子供は繋がるのに非常に時間がかかるんです。操作慣れしている子はパパッと繋ぐので、すぐに繋がるんですが、30何人のなかで必ず繋がらないで終わってしまうという子供も実際におります。したがって30何人の子供が一斉に電源を入れても簡単に繋がる、それから、電源を入れたあとで、ぐーんとぐるぐるしているのですが、中学生は、その症状を待っているのですが、小学生は、その症状になると自分もパニックになってさらにボタンを押してしまうということでもさらに重くなってしまうということで、とてつもなく重いと子供に訴えられました。でも多分あの子供は、情緒の子供でしたので、多分保育園幼稚園から親のスマホやタブレットを使

するのがひとつと、あと物理的な制約として、机って狭いわけですよ、で、教科書広げてタブレットやって、ワークシートやって調べてこいって絶対事故起きるわけで、それはやっぱり使い方としては制約は当然あって、そういう場合には教科書しまって、こことこだけでやってくとかですね、それはやっぱり先生方が指針を示してあげないとなかなか難しいのかなあと考えてます。あと、桑山先生から話のあった情報リテラシーの話ですけども、やっぱりこれも先生先生に任せておくんじゃないかと、ある程度統一的なものを作った方がいいと思います。私は、個人的に思うのは、人を傷つけるようなことをしてはいけないよと言うのは、それはもともととして、情報の質というのをやっぱり私は教えたいなあと考えていて、結局あの簡単に繋がる yahoo とかですね、youtube とかですねそれが全てでは全くなくてそこは全然質が担保されていない訳ですよ、私なんかひねくれてますから体制の言うことってほんとなんかすぐに思うんでさっきの youtube ですらですね、変なことをいうところから政治的とかではないんですけど変なこと言うとガイドラインではじかれるとかですね、そこまでそれこそ知る権利を侵害してるんじゃないのと思う面があるので、その情報を取りに行くって言う姿勢と安易に鵜呑みにしないでねって言うところもその情報リテラシーとセットで教えて欲しいと、そのコンテンツも作りたいなど、何なら私やりますんで、そんなことを考えてた次第です。すいません長々と、ありがとうございます。

湊市長

はい、大変ありがとうございました。

今いろいろと話を伺ったことも含めてちょっと私からも少し私の思いついたこととかですね、少しまた話をさせてもらいたいのですけど、前回でしたか教育会議か違う場面だったかもわかりませんが、私も私市長に就任した時に、これからの子供たちにぜひITの力を少し付けさせてあげたいというのが、まあ、あの頃も今もそうですけれどもITと英語の力っていうのが、これからの子供たちにやっぱり色々、大きくなっていく場面とかですね、まあもちろん就く職業によって全く必要ないかもわかりませんが、少なくとも私は由利本荘市の子供たちは、ほかの市町村よりは少しで良いので、英語やITの能力が、高い子供たちであって欲しいなあとという思いがあってですね、英語についてまあ、あのしっかりとやらせてもらってるので、今回そういうこともあって、ITについて少しほかの市町村よりも、まあ少しこうレベルアップできるものかということ、実はあの去年のですね、あの予算要求と予算こういろいろ組み立てた段階でですね、教育委員会にもそういうことで私は、ICTのことをがっちりやりたいので、なんか案を作ってくれということ、出てきた案がですね。最初出てきたのがちょっと物足りなくてですね、これではあんまり物足りねえなと言って返したんですね、

そしてその時にはですね、ここにいる三浦次長とかですね、わかったら市長、その代わり、金に糸目をつけねんだがと言うようなですね、膨大な予算がかかってもいいんですか？と言うことで言われまして、

私も、もうそう言われたら糸目をつけねと言わざるを得ないぐらいで、今回は割と予算的にはですね。あの私のいろんな新規事業、今年度やりましたやっていますけども、そのうちでもこれについては割と6000万とか7000そんな感じの予算ですね。割とですね、新規事業としてはちょっと多めの予算をつけました。だからこそなんとかやっぱり成果を出さないといけないと、もちろん思いもありますけども、そして作ってくれたこの案が、このICT学びのとか県立大学とか、いろんな人たちを巻き込んで。教育委員会とちょっと違うかもわかりませんが、県立大の卒業生の人ですね。ほとんどもう卒業したら残らないんですね。由利本荘市残ってくれる子がいないんですね。もっと県立大と近くなりたいっていう思いも別であってあったもんですから、そういう意味でも、このICT学びのアップデートプラン、学校とも生徒とも近くなれるって意味で凄く良いプランだなと思っています。あの今日、30人だって話は私、今日初めてちょっと聞いたんですけど、大変良かったなと思っています。やっぱり子供たちとか学校の子供たちもやっぱり楽しんでくれてるってのも大事でしょうし、桑山先生、おっしゃる通り、これは県立大っていうか、大学があるからこそ私たちができる取り組みでですね、ほかの市町村ではなかなかこういうのができないでしょうし、あの独自のあれとして本当に良い政策を進めさせていただいてるなと思っています。まあ、とは言えですね、すべてデジタルが良いって訳ではないです、いろいろ縷々ありました。だいたい私も普段はタブレット使ってるんですけども、今日は紙だらけでですね。アナログも大事と言うのも全くあるので、全部何から何までデジタルと言うことではなくて、アナログも大事にしながらという思いも持っています。まあそうした中でですね、さっきあのう桑山先生とか、今の小坂先生からもその機器の使えるスペックが悪いとか。ちょっとそこまで私もピンとこなかったけど、やるって言った時に使えないものであれば、これ話にならないので、予算的なものももちろんあるでしょうけども、少しそのスペックだとか、環境については速度もですね。確かに30台40台一気に繋ぐと遅いってもあるかも、ちょっとそこは、やっぱり考えないと、使えないものを持っててもですね。かえって別のいろんなものが起こるなっているので大変、今、なるほどというような思いがありました。

まあ、あとはあれですね。桑山先生のそのさっきの妄想の話ではないんですけど、この後の話とまたちょっとつながっていくか分かりませんが、あの遠隔で授業ができたかとかって言うのは、これからやっぱり求められるかわかんないですね。学

校生徒が少なくなっていく中で、ちょっとそれがこの後の話題にも少しつながっていく部分があるかなと思いましたがでもそんなこと思ったりですね、あの情報の扱い方、それについてはやっぱり大変だなと、すべてのものがなんでも検索できても、どれが正しいのか正しくないのかこれも、大きな課題だなというふうに考えたところでありました。あと下のタッチパネルなんかもあれも今小さいこういうサイズでやっていますけど、あれは技術的にはもう、大きい、こういうパネルでもできるわけですね。空気をこう押すとそれで動くなんて言うので、いろんな使いかたっていうかがあるなと思ってですね。あれもかなり特殊な技術なんですけども、由利本荘市のIT、子どもたちも含めてITを少し進めるんだというメッセージをだーって世界に出したところ、無償であれば貸与してくれたんですね、その会社がですね。由利本荘市そうやって頑張ってるんだぼうちの技術どうですか？ということですね。無償でまあ永久貸与してもらうことになったんですけど。なのでですね、あの子供たちなんかにはまあいうのを少し触れて見てもらったりしてですね。あのなんかそういったITだとか、そんなのに興味を持ってくればいいなと思ったりしたところでありました。まあ、あのそんなことですね。冒頭言ったように、少しITのそんなにはあつと詳しくなくても、少し由利本荘市の子はITに詳しいんだと言うような教育ができればなあというふうに思っています。まあ、そんな私の意見もあれですけども、何かあれですか？今、皆さん方、いろんなお話を伺った中で、何かまた、皆さんのほうからなんかお話なりたいこと、ご意見ご質問あればお受けしたいと思いますけれども、何かございますでしょうか？ ございませんでしょうか？ 特にあれですか、大丈夫ですか？

最後あれですか、なんか教育長から皆さんの話を受けて、なんかあれです。特にありますか？

秋山教育長

はい。

とくにタブレットの不具合に関しては、非常に私たちも悩んでいるというところで、それは、本体そのものの能力なのか、校内環境なのか、繋げるときに難儀しているの、その原因等は、もう少し時間をかけて、そこを克服していく具体的な方策を探していかなければいけないんだろうなと思っています。同時に、毎年購入していかなければいけない部分があるのと、それから更新時期になった時、これが国がどのような補助金の出し方をするのか見えてないところがあってそこら辺をかなり注視していかなければいけないと思います。

実は、先生達が使うより子供たちの方がよっぽど親しく使っている、学校全体で進めていくには、先生達の意識をどんどん変えていかなければいけないと思います。

湊市長

はい、話題提供1番については、皆さんよろしいでしょうか、そうすれば続きまして話題提供の2番「部活動の地域移行に向けて」の説明をお願いします。

相庭主幹
兼学校教育課長

【(2)「部活動の地域移行に向けて」について説明】

湊市長

はい、それでは、ただいま説明が終わりました。
こちらにつきましても、先ほどと同様、教育長から順番にちょっとご意見をちょっと伺ってまいりたいというふうに思います。
教育長お願いします。

秋山教育長

はい、この部活動の地域移行は割と急に出てきた話で、えっと非常にあの委員会の中でも、まあ、具体的にどういうふうに進めていくのか、困っている部分でもありますので、ただ、現実としてあるのは学校規模が今、非常に小さくなってきていて、中学校の先生方、一つの学校の数が非常に少なくなって。だから昔のように誰かがやって誰かがやらないっていうような指導がもうできない。みんなが指導に行つて関わらなければいけなくなって、当然自分の知らない競技だったり部活だったりするものを持たなければいけないというのが非常に先生方の負担として、大きくなっています。で、なおかつ今の働き方改革の中にあつて、土曜日、部活動の基本的な活動の曜日になっていて、午前中だいたいつぶれます。でも、大会があれば、色んな大会に出て行きますし、夕方、放課後結構時間を取られるっていうことで部活に関わる時間って非常に、大きくなった時にあの主婦の方とかが本当に困ってる現状としてあるなあっていうふうに思います。私、小学校があつた部活だったのかな、スポ少に変わった時に、小学校の先生だったんですね。部活持ってたんです。

スポ少は、ワースト、スポーツ少年団というものにもっていきますよっていうふうに一度になって。その中で調整していったんですけども、あそこでは報酬のようなものってほとんどなかったんですよ。だから割といつの間にかなんやかやして。まあ、親が保護者会の中で指導者としてやってたりって、その順番に繰り返したりとかつて、いろんなものの状態はあるんですけど、それでも何とかなつたなつて思います。が、今回は、国の中でも報酬を発生させるっていう話になったときに、どこまでやれるのかが非常に具体的になつてなくて、ただ、それを2年間の中で土日については移行を進め

るっていうふうにあの具体なんて話は進んでいるので、それに向けて、委員会としても協議会を立ち上げながら、地域の指導者等々、協力しながらやっていかないとっていうふうには思っています。具体的な話に進むステップがあまりまだ示されていないので、具体的なこと言えないんですけども、ただ黙って見てはられないので取り組んでいきますが、非常に難しいことがたくさん。これに含まれているなあっていう風に考えています。以上です。

湊市長

はい、わかりました。それではまた順番で佐藤教育長職務代理者おねがいします。

佐藤教育長職務代理者

はい。私も今、教育長おっしゃいました、その働き方改革のこの時代に、教師に対する負担が大きいという前々から問題になっておりましたので、この地域移行化に関しまして指導の面ではとてもいい方向ではないかと思う反面、先ほどありました報酬面でどうなってくるのかというのも大きい問題になると思います。

小学校のスポ少化ってというのは、まだこの子供たちは人数が多い時代のスポ少化だったものですから、これに関しては指導員の問題と先生方のやり取りが中心だったんですが、今回のこの地域移行に関しましては、各学校での、その部員の減少というのも一つの、大きい課題となっていると思います。昔であれば、部員数少なければ、その部は廃部と簡単に決められたんですが、今やはり子どもたちの個性を生かすためにも、簡単にそうはしないで、できるところでやらせたいというのがこれ最適化の一つの方策といいますか、進むべき道ではないかと思っておりますので、やはり学校をまたいだこのスポ少なんて言いますか、スポーツ団体として、まず残せるものは残したいっていうのが一つなんです。ただ、それによりまして当然場所が変わるもんですから、学校内でないということ移動時間もありますし、またそれによりまして練習の時間の短縮化というのもリスクが大きいんですが、でも何よりもやりたいという子供たちのその熱意を持って、できるだけこの学校をまたいだこの団体というものをうまい具合に組み合わせればと存続はしていただきたいと思っております。 そうなれば、特にやはり教師のここから離れて、その地域の指導員というのは必要になってくるんじゃないかと思えます。これも本当に予算的にかかり増しすることになるので、じっくり考えていかなければならない、一つではないかと。

また、地区大会も結局由利本荘地域で開けないとなれば、ほかの地域と地区とのこの協議によりまして地区割をもうちょっと全県でも、少なくして要するに地区の範囲広げる。これは県とのやり合いやり取りでしょうけども、それが叶わなければ、やはり最初から県大会しかないんですが、もし地区を開きたいとすれば、そういう方

策で、地域をまたいだ相談も必要ではないかと思っておりますので、これから考えていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

湊市長

はい、ありがとうございます。次に桑山委員お願いします。

桑山委員

方向性はもうこれで行くのがいいだろうと、まあ、行くしかないと言いかけて、しかではなくて。この方向で行くのが良いだろうというふうに思います。ただ、スポーツ競技団体、特に子供の団体の中でこれまで、大きな問題になってきたのが、指導者の権力集中ですね。で、そこから起きてくる様々なハラスメント、特に女子生徒に対する性的な問題とかですね、あるいは、あとは暴言とかですね。そういったまあ自殺に至った、これ高校ですかね。中学校でもないとはいえないかもしれないんですが、そういった権力構造ができやすい体質がこういうスポーツ団体にはあったということで、そのところ、例えばプロスポーツではコミッショナー制度っていうのがあって、サッカーにしても野球にしてもですね。そこでいろんなこう最低事項を公平に取り扱うという、問題を解決して行くという。で、そこでこれから今までは学校内の部活であれば、学校内のまあ、校長先生以下ガバナンス、統治っていうのが学校の中でできていたわけですが、学校が離れて地域になった時に、その辺のガバナンス体制ですね。その団体の統治体制をどうするのか、学校とどの程度放れちゃうのか、学校はまあ、ほとんどノータッチ。でも自分の学校の生徒をそこに参加させるわけですので、まったく責任がないとは言えないと。だから、学校の責任者を交えた形での、そういった運営委員会のようなもの。そういったものをしっかり権限を持つてですね、運営委員会というものを組織しなきゃいけないし、さらにその上の団体として、県あるいは市町村の教育委員会があたるのか、あるいはその競技連盟ですね。その同じ競技の、市町村あるいは県のレベルでのあの競技連盟が、そこにガバナンスの指導していく体制の中に入ってくるのが、まあ、おそらくそれらがみんな入っていることが望ましいんだろうと思うんですが、そういった体制をしっかりと作っていく。まあ、身近なところでは、僕のところに、相談に来た保護者がいて、要するに部活の中でその指導者の態度が横暴であるっていう、あるいは、どういう基準かわかんないけども、あの生徒に対して公平な扱いをしてるように見えないと言ったようなことを僕のところに来て喋っていた親御さんもいるわけですので、そういったどうしても、スポーツ指導するもの、指導されるもの、あるいはそこで中心的な選手になるもの、あるいは昔の僕らの言葉で言うと、野球であれば球拾いで終わっちゃうもの。そういった実力の差が出やすいところですので、この方向はよろしいんですが、今後に向けた検討課題として、まあ指導者の質の確保とかで

すね、これはもう本当に大事なことだと思いますので、その辺のこう検討ですね。充分進めていって、いい組織体制づくりを心掛けていって、こう移行していければいいなと思っていました。はい、以上です。

市長

はい、ありがとうございました。
それでは、次に小坂委員、お願いいたします。

小坂委員

はい、ええ、この部活動ですが、小学校がスポ少に移行する時に非常にやっぱり保護者の中で悩みが、たくさん相談を寄せられた経験があります。その中で、今、桑山先生の方からもお話がありましたが、指導者の質という面で保護者は非常に悩むということがたくさんありました。特に先生たちであれば、というようにあるのは物事を判断したり、選手を選考したりする際に教育的判断が行われるか、勝ちにこだわるか、そして指導者と保護者との人間関係によって選ばれたって、そのような問題が発生することで、保護者は非常にこう疑心暗鬼になって、子供達を安心して任せることができないという、そういう訴えがたくさんスポ少の移行期にあったことを思い出しました。そういう面で中学生になるということは思春期もありますので、非常に人間形成に、大きな影響を与える時期と思いますので、この指導者の質ということ、あるいは先ほど桑山先生の方からお話がありました、運営委員会等で選手を選ぶ際の判断の仕方等の研修などもやはり大切ではないかなということを考えてお話しを伺っておりました。もう一つ、スポ少に移行したり、あるいは2校合同で練習したりということが、始まった時に一番かわいそうであったのは保護者が送迎できない子供が自分の入りたいスポ少に入ることができずに、結局スポ少を諦めたという子供もおりました。それに先ほど、スクールバスの活用というお話が出て素晴らしいことではないかと感じました。経済的に厳しい子供と、それから保護者が練習場所に送迎できない、そういう家庭環境の子供でも、自分の参加したい運動や文化のほうに参加できるということを保証されるということは、とても大切なことだと思います。そういう面で、子供たちが自分の夢や希望を、大きく膨らますことができるような部活動にこう育て上げていくような、そういう学校や市、教育委員会等でもその支援体制をきちんと構築して、ハラスメント・暴言をはく指導者を認めないような、そういう土壌を風土を育てていきたいものだという感じました。
以上です。

市長

ありがとうございます。

それでは、次に、高橋委員お願いいたします。

高橋委員

あのう、今の指導者に関して、ちょっと事務局にお聞きしたいのは、その外部指導者リスト今9月現在、11競技45名と言う記載があるんですけど、これ、どういうルートでこの人たちが、リストに登録されるのかっていうのをちょっと。

相庭主幹
兼学校教育課長

はい、ただ今の部活動指導員の以前から各校におきまして身近かなところでは保護者ですとかが、部活に関わっていたりする場合があります。各校の校長の方で、外部指導員として認めた方々ですが、そういった外部の指導者ですけれども、これまでは学校毎に任せてたようなところがありましたけれども、それを一律リスト化してピックアップしたというようなところなんです。今までもどうしても自分のお子さんに関わっている前後はやってたんですけども、その後、卒業とともにお辞めになる方なんかも結構おりました。そうではなくて、恒常的にやっていただけるような方々を集めた、そういったリストになっております。

高橋委員

ありがとうございます。まあ私も桑山先生と小坂先生と全く同じことを考えていて、同じことを言ってもしょうがないんであれですけど、やっぱり質の確保が非常に大事だなと思ってました。

小学校なんですけど、その外部講師がその男子生徒に性的なものをしたというのが刑事事件になったことがあって、それを見て思うのはやっぱり外部講師の意識っていうのは全然やっぱり教育者、学校の先生方とは全く違うんだなって非常に認識したところです。自分勝手にこう、自分勝手というか、自分の経験でこういうもんだと思ってやってきたものでやると、それイコールハラスメントとか、そういったところになるんでしょうし、あるいは、その自分が中学生であるかのような錯覚、錯覚を覚えることでもないと思うけど、なんか近いお兄ちゃん的な感覚でその延長さを性的な話になってしまったという側面があって、そこはやっぱり手放して任せられないなって言うのは非常に思いました。で、そういう面からいくと、運営委員会とか、そのモラルの話とかっていうのはきちっとやっていかないとかなり危険だなあっていう感じがしてます。危険イコール、まあ私の立場から言うと、やっぱり管理者として市が何をしてたのかと、そういう訴えられる危険も私は出てくると思うので、学校の先生ができることっていうのは、そこのコントロールというか、そういったところにやっぱり部活の指導じゃなくて、そちらの方に移って、それはかなりこう重く考えた方が良いんだろうなというふうな認識で聞いておりました。以上です。

湊市長

はい、ありがとうございます。ええと私の方からも少しあれですけども、まあ先ほど教育長からありましたけど、これ皆さんにとってもそうでしょう、今回のこの部活動について、やっぱり結構唐突感があつてですね、いきなり、こうおりてきた話だなあつていうことですね。私の方でもその対応に非常に、まあ、悩んでいるとか、色々まだ、どうしたらいいんだろうっていうところで。加えてそういった体制もそうですけれども、冒頭説明があつたように、人数的なものをあれですし、まあ、そういった中でも例えばですけど、去年なんかは東中の野球部がですね、全国大会出場したりですとか、ああいうのは、そのやってる子達も、もちろんなんですけども、いろんな子どもたちにとってのすごく自分の友達がそういった全国に行ってるっていう。あれで、なんかあの思いがやっぱりあるなと思いました。あと小学生ですけども、石沢小のバスケット部なんかもあれも全国ですとかですね。やっぱり、スポーツだとか、こういった部活動によって、子供たちが成長したり、周りの子供たちに与える影響、すごく大きいなと思ってですね。ただ、やるだけではなくて、やっぱりどこか結果につながっていくっていうか、成績が出るっていうのはすごくあれだなあつていう印象を思ったりはしました。ただ一方で、やっぱりあれです。今お話を伺っていると、まずやっぱり一番なのは、今のその指導者というところなんだなあつていうのをすごく感じたところでした。指導者のいわゆるその質であつたり、あとは佐藤委員からもあつたように、それも報酬のところ、少し気にかけていらっしゃいましたけれども、やっぱりその指導者っていうところにやっぱり直結する部分も、その報酬のあり方とか考え方っていうのも非常に、大きいんだなっていうのをすごく今感じたところでした。あとは桑山先生の学校との距離感と言うんでしょうか、その学校とどれぐらいの距離感でいるのかであつたりとか、結構その辺は非常に難しいところなんだなあというふうに思ってます。ただ、流れるにはそういうふうにもう流れていくっていうのは決まっていますので、その方向でいかにやっていくかってあたりはですね、いろいろ、またご意見があつて進めなければいけないなというふうなところを感じたところでした。いずれは難しいなあつていう思いもあつたんですけど、なんかあれですか？教育長その辺についてコメントでも。

秋山教育長

まずはですね、スポ少の時と一番違うのか報酬が発生させることを考えてるじゃないですか、ということは当然、市のお金とかも入って行く、いろんなお金が、公金が入って行くっていうことは、そこに対する責任って大きいと思います。だから スポ小の時は、親の会が中心になっているような謝金を払ったりしながらやってたのとは、本

当に次元の違う話になっていくんじゃないのかなっていうふうに思います。あと、もう一つは、首都圏は指導者に対しての企業とか事業所みたいなのがたくさんあって、その人たちが入って手を上げて、私たちやりたいっていうところがいっぱいあるんですけども、県内だと、なかなかやっぱりそれがなくて、あの水泳とかだと、もう、もしかしたら色んなところが、お金やってやってるんですけども、そういうところとかが、こう手を出していただけるのかなと思いますけど、そういう事業所系のもも、もしかしたら今後、指導者の手段としては、大きくなっていくかなと思いますし、市の中でも、スポーツとか文化とかの協議会と、いかに連携して話を広げていくかってのはこれから本当に丁寧にやっていきたいなというふうに考えています。

湊市長

はい、わかりました。はい、あのいろいろこの件についてお話しありました、ほかに何か皆さんの方から、この際ということで、はい、小坂委員。

小坂委員

今、ちょっと教育長様のお話を伺って思いついたことなんですが、ブラウブリッツの選手の皆さんはローソン等で、皆さんバイトをして、生活をしていらっしゃるんですね。そういうプロの方々でも、たくさん報酬いただいている選手の方々にはバイトしながら選手として頑張っている方がたくさんいらっしゃるもので、もしかしたらバスケットとサッカーの指導者は、ここにこう連携ができれば素晴らしいものになっていくのではないかということ、今、お話を伺いながら、そして子供たちも選手の方を尊敬していますので、やっぱり尊敬する気持ちがあると、あのスムーズに指導を受けることができると思いますので、いかがなものでしょうか？
検討していただければと思います。

湊市長

はい、ありがとうございます。
はい、桑山先生。

桑山委員

あれですね。簡単に言いますが、由利本荘市の宣言の中に、スポーツ立市があって、その、スポーツ大使が確か4名ですか、任命されています。
それはそれで、とてもいいんですが、せっかくスポーツ立市宣言し、スポーツ大使を任命していますので、是非その辺の構想を、中学校のスポーツの部活に生かせるようなですね、そこを繋ぐような方策をこれから作っていければいいなと思っていますので、よろしくお

願います。

湊市長

はい、高橋委員。

高橋委員

小坂先生の話で、私もブラウブリッツとあのちょっとあるので、もし良かったらあれでしたらお声がけしようかなと思ったのがひとつと、

あと一つやっぱり私の感想があるんですけども、やっぱり教育ってやっぱり無償だと思うんですよ、私。

私はもうお金要らないとかの活動かなりやってるせいかもしれないですけど、やっぱそういう人がやっぱり指導者として、まあ配備はですね。やっぱふさわしいというか、まあそんな感じは受けますので、なんかお金もらわなきゃやらない、そう言う人はいないと思うんですけど、なんかお金お金が最初に来ちゃうと、ちょっとなんか寂しいなあっていう感じがします。全くの感想です。

湊市長

なるほど。

ちょっとそういった外の、あのいい人にもいろいろとお願いするだとか、スポーツ大使あたりも少し研究をしたりですね、もう時間もないことですから、少しすぐにでも対応してみたいというふうに思います。他にあれですか、特に大丈夫でしょうか？

はい、大変ありがとうございました。

それでは、三つ目の最後の話題ということで進めさせていただきます。児童生徒数の推移と学校再編について。事務局の方から説明をお願いします。

三浦教育総務課長

【(3)「児童生徒数の推移と学校再編について」を説明】

湊市長

はい、ただいま説明終わりました。この3つめについても先ほどと同じような流れで進めさせていただきたいと思います。まずは教育長。

秋山教育長

はい。すみません、よろしくお願いします。地域の願ってというのは当然学校があって欲しいというのは、大きいものだなというふうに思ってます。しかし、子どもを持つ親の世代、保護者は、できれば多くの友達の中で成長させたいという願いも、大きいというのは私の今までの教師生活の経験上、すごく思います。で、私は矢

島の川辺出身なんです。一つ手前の、分校だったんですよ。1クラス15人でした。で、3年生まで分校で育って、矢島小学校に行った時に一つの学年が140人でした。で、15人という数を考えた時に、今のこれからの学校が1学年15人とか、そういう世界ですもんね。それでずっと、中学校3年まで育っていくことに対してどういふものなのかなっていうのは、非常に自分の中でもあの疑問というか、あの結論が出せないものがあります。ただ、今後学校で、えっとさっきの話ありましたけど、ICTとかが進んでいった時に場所にとらわれない学びっていうのも多分あって、それと人との交流との組み合わせをどうもっていくかっていうものを考えた時に、あの今の地域にある学校が無くなるとダメだとかって、そういう話でもまた無いのかなって。そこの選択肢をいっぱい出せるようなものを提案できるような教育委員会の考え方っていうのを今後進めていきたいなというふうに考えています。以上です。

湊市長

なるほど、はい、わかりました。
それでは、佐藤委員お願いいたします。

佐藤教育長職務代理者

はい、私も同様でして、できるだけやはり、この1地域1小中学校っていうのは変えずに行きたいという意見の方が比較的まだ私ぐらいの年代の人達から聞く分には多いんです。まして、前に、統合するときにこれ以上減らしませんよっていうな感じで、その地域の人たちに説明した点多々あったものですから、先ほど言われた通り、複式学級になっても、やはり残したいなというのは、私の気持ちの中にもあります。それでも先程来、言われてるとおり、ネットを通して、またあの色んなことが学べる時代にもありますので、人数が少なくても学べることは多々あると思います。何よりやっぱりこの地域から由利本荘市から人は減らないためにも、その地域地域に子供たちを育てる育む、愛情と言いますか、それを残したいんですよ。できるだけ小中学校ぐらいまで、その地域で育って地域愛郷土愛を持つことによって、また帰ってきてくればとそんな気持ちが多々あるものですから、この基本はできるだけくずしたくないなど。まあ、街中はまだ大丈夫なんだろうけども、やはり本荘地域以外はそういう点があります。あと、給食なんか問題になりますが、ええと今、北部給食センター以外にも作る予定があるそうなので、そうなれば給食を各学校に置かなくても配送することによりまして、問題点が少しでも緩和できるんじゃないかと思いますので、それが私の願いでもあり、考えでもあります。以上です。

湊市長

ありがとうございます。

それでは、桑山委員お願いいたします。

桑山委員

今の佐藤委員さん、あるいは教育長の発言とほぼ同じです。僕は教育委員になって、最初の学校まわりが閉校式だったんですね。で、ある学校ではもう生徒みんな、父兄たちもこう涙が出て、僕もつい貰い涙であれでしたけど、別の学校はみんな元気ですね、で、それは新しい学校で大勢の仲間とができるんだっていう友達ができるんだっていう、そういうまあ、未来志向があってですね。まあ、一番の原則として思ってるのは、その学校がそれまであった地域の皆さんの意向をまず一番に考えたいと、で、その時に地域の皆さん方がその統廃合に賛成した理由っていうのが、やはり複式学級だと学習が十分な環境でできないんじゃないかということと、それから部活ができなくなっちゃうっていうこの2つのことが、大きな理由で、統廃合やむなしっていうことで賛成していたように思うんです。大きな理由ですね、賛成した理由は。ほかにもいろいろあるかもしれないんですが、この2つがそうではないよっていうことを、複式にはならないと、ひとりであっても、1人の先生と1対1でできますよっていうその複式にはならないよっていうことと、それからあの部活、スポーツに関しては今、これから中学校ももしかすると広域のあの学校単位の部活でなくなるっていうことであれば、そのこのところも、統廃合の理由にはならなくなるんじゃないかと思えますね。で、最初に教育長さんが言われた、あのいろんな選択肢をたくさん準備して、その中で、その住民、あるいは生徒たちがどれを選ぶかっていうことは、僕は賛成だなと思って聞きました。前はネガティブな選択肢ですね。これができなくなる、これができなくなるっていうことで、統廃合に賛成するかどうかっていう問い方だったんですが、それがなくなった場合にどう選ぶか？ それでも、なおかつ大勢の中で生活する方を選ぶのであれば、僕はそれでもいいと思います。でも、子供ですね、犠牲にする形にならない決定の仕方、地域の大人の人間、お年寄りがおらほの地域から学校なくなるのが嫌だ、寂しいねと、だから、あの学校残してくれっていうことを理由にするのではなくて。その子供たち自身が、その学校生活の中でどう成長して行くのに最適な環境であるのか、そのところを最大限考慮した中で、こういういろんな選択肢を用意して決めていただくっていう考え方に、僕は賛成したいと思います。以上です。

湊市長

はい、ありがとうございます。
それでは、小坂委員お願いいたします。

小坂委員

私自身はやはり各地域に学校を残したいなあ、その伝統やら地域

の良さを失いたくないという気持ちがあります。でも、今お話を聞いていて、ふと私がたくさん学校の統合してきました、で、たくさん学校の統合して来た時に、保護者は、私たちは、大きな学校で子供達を体育やら音楽の授業やらをみんなと一緒にきちんとゲームができる状態で体験させたいと、そういう風に言われました。ふと自分があの時の地域のおじいちゃん、おばあちゃんと同じ考えになってたのかなと思ったのですが。そこで提案ですが、毎年、子供たちが生まれると木のおもちゃをプレゼントする際に、保護者に、もしも送迎を学校・市で保証するとしたならば、どこの学校に子供を通わせたいですか？というアンケートが、全ての学校に、今のある地域の学校と全ての学校に、こう丸、選べるようにしてアンケートをとってみるのも、もしかしたら保護者の願いが本当の今子育てしている、これから子育てしようとしている保護者の願いが叶うのではないかなと言うことを感じました。それから分校に勤めた際に1週間に1回とか本校との交流の日があったんです。つまり、その時には体育とか音楽とかそういう複数でなければ授業ができないものを授業した記憶があります。もう一つ、修学旅行とか遠足などは、小さな学校が市町村でまとまって、みんなで修学旅行に行った経験もあります。そういうことも使えると思いました。また、複式の教室というのは、複式の先生が3年生に教えている間に、4年生の子供がプリントをやったりするんですが、これからはICTが素晴らしい状態になると思われまますので、例えば先生が3年生の子供に授業をしている時間は、4年生の子供はICTで、ほかの学校の4年生の授業を受けれるとか、そういうカリキュラムの組み方も可能になるのではないかとということで、地域の良さを、でも、もしも統合になる時には、地域のその伝統や文化をきちんと統合になる学校で受け継いでそれを消さない工夫も、由利本荘市の素晴らしさを残して行く大切なことではないかと感じています。ディズニーランドにも行ったことがあるけれども、地域の名所には行ったことがないという子供が非常に多い実態です。ですから、その地域のそういう良いところをきちんと残して、そこに自然教室やら昔は遠足と言いましたが、自然教室等で子供達が体験したり、あるいは学校の子供ではない子供たちも今、実際にやってカダーレに行ってから出発して「まいーれ」の方に行ったりして、非常に良い学習が3年生行なわれていますが、それが全学年で地域のよさを体験できるカリキュラムを組んでいくことが大事ではないかと考えるところです。ですから、本当に難しいなあということを感じているところです。以上です。

湊市長

はい、ありがとうございました。
それでは、高橋委員お願いいたします。

高橋委員

四番目に発言って非常に、こう、だいたい皆さん、同じこと考えてるなあと思いつつ、今回の話題も非常に難しい問題だなとは先生方がおっしゃる通りで、ただもう時代がこうですので、どこもこうですので、これを前提としていかなきゃいけないんだろうなって言うのが大前提で。私も学校訪問して思うのは、たぶん人数少ない学級ってそんなダメですか、というところなんですよね。結構きめ細かい指導がされていて、特に知的のクラスなんか、もう本当にここまでも丁寧なのかと本当頭が下がる思いで見に行きます。人数少ない学校では、やっぱり、先生にも落ち着きがあって、生徒さんも非常にいい雰囲気です。私は40人クラスの時とやっぱ全然違ってですね。まあ、それが個別最適の最たるものかなと思ってます。じゃあ、それ、1人になったら2人になったりと、いったときにどうなるかっていう話もありますけど、それは教育長おっしゃるような、まあ、ICTであったり、あと、その私、ちょっと思い浮かべて、私、1人だったらやだなと思ったのは、やっぱ合わない先生っているわけですよ。合わない先生、その人とワンツーマンで1年ってやっぱしんどいなあと思ったりして。そうするとやっぱそこはやっぱりこう、先生方で先生方も、その人ってわけじゃないですから、ほかの先生方とも協力して、あとはその生徒に関しては縦割りをさらに進めてですね、できるところは本当縦割りでやっていくと、そうするとまあ、ある程度カバーできるんじゃないかと、そういう方向で、なので、やっぱりこうネガティブに捉えるのではなくて、少数の意味っていうのは非常にやっぱり私は意義があると思っていますので、そこをまあ、そちらの方も保護者に、地域の人には伝えながら、やっぱそれ思いますもんね。みんなに伝えたいところなので、そんな所を考えて、まあ先生方と一緒にです。

湊市長

ありがとうございました。すみません、発言の順番少し配慮が足りず。

そうですね。はい、大変ありがとうございました。まず、概ねやっぱりまあ、皆さんやっぱりね、1地域1小中学校っていうのが、その地域で、やっぱり学校がっていう思いは皆さん一緒だなあっていう思いがありました。ただ本当に保護者とか若い世代の人に聞くと、やっぱり大人数っていう、先ほどの小坂先生、やっぱりそのそういう意見のほうがやっぱり多かったりはするんですけども。なので、まあ、どういったそのITを色々駆使するっていうことももちろん充分できますし。幸いというかどこも地域もそうなのかわかりません。あの由利本荘市はですね、スクールバスなんて2・30台からある、もっとあるのかな、市全体ではですね、多分2・30台か、もっと4・50台もあるのか、ちょっとわかんない、かなりあるんですね、スクールバスが。先ほどの部の時もちらっと話が

あったかも、多分それがいろんなその使い方には制限が、皆さんご存知で、その補助金等、そのなんだか以外の、要するに目的外使用っていうんでしょうか、いろんなことなんかハードルがあるようで、その辺の規制緩和っていう言い方が正しいか分かりませんが、もっと使い勝手を良くして欲しいってのは、これやっぱり法律なんだとすればですね、法律だとか、国とかに働きかけなければいけないのかわかりませんが。もっと色々とスクールバス、せつかく何十台もあるので、気軽にというか、パッと使えるようにすればですね、今のハイブリッドじゃないですけども、その少人数での授業も充分やるし、大人数でやる時はずっとそのバスでですね。みんなで行けるといったような環境。あとはITを使うっていったような、まあ、いろんなことが特にこの由利本荘市は、できるかなというふうに思ってますので、そういう意味ではですね、そういう、なんて言うんでしょうね、いろんなことを考えてですね、他地域ではできないようなこともやっていけるようになればいいなと思ったりしました。まあ合わない先生とはどうしたらいいかってですね。この辺はですね、また課題なのか、そんな風に少し今、思ったりしたところでした。教育長、色々話し聞いて何かあれですか、特に。

秋山教育長

今日全体の話が

湊市長

全体ですか？まあ全体。もしあれだったら、今の話題の3について何か皆さん他に補足だとかなんかありますか？
なんか、はい、どうぞ、

高橋委員

はい。小坂先生がおっしゃる、こうやっぱりみんなで何かさせたいと、それもわかるんですけど、やっぱり、まあ、実際のこの今のこの少人数、地方って言ったら人数が少ない。小学校の現状のあり方を見れば、多分、保護者また感覚変わるんじゃないかなと思うんです。私、実際見るまでは、やっぱりその少人数って、ええって思ってたんです。見るといいなあと思います。もう一つ、常々感じているのは、やっぱり知的学級のその充実さと関連して普通学級にやっぱりこう無理してって言ったら怒られちゃいますけど、ちょっとストレス感じながら、やっぱりいる子がいて、そうするとやっぱりほかの子にもやっぱり影響があつて。私なんか、まあ、私が決めることじゃないんですけど、こっちの方でやればいいのになとすごく思うんですよね。難しい問題だと思うんですけど、それもこんなにこう充実してるんだよってというようなのをなんか保護者に発信できる場っていうのが、私は作って欲しいなあと常々思ってます。

で、事件の話するとやっぱり、こう犯罪を犯す人っていうのはやっぱりどこかでその辺もう小さい頃からそういう兆候があって、それずっと来て、手当してもらえないでずっときて、いつか、まあ、高校でポンといっちゃう。就職してからもついていけなくなっちゃうで、犯罪になっちゃうと、そういう方も結構やっぱり見てきているので、なんかうまくこう、初期の段階で手厚くってというのが、なんですかね、行政とか、そういった援助があればいいなと思うところですね。

市長がいるところで言いたいなと思ってたので、話させてもらいました。

以上です。

湊市長

はい、ありがとうございます。はい、

秋山教育長

今のことに関してっていうか、すごく考えさせられるのは、今までの教育って多分ですね、集団の中で揉まれて揉まれて強くなりながらって、そういう教育がやっぱり大きかったし、だから大きい集団の中でいろんな刺激を受けながらってあったと思うんです。でも、これからの個別最適化になった時にそうじゃない部分でもやっぱりいきていくっていうか、自分の良さをどう出すかっていうところを、一生懸命考えながらやっていく時には集団の大きさを実はあんまり関係ないのかもしれないなあっていうのをすごく今日の話のなかで思いました。それも含めてやっぱり保護者とか地域の方々に話をしながら選択していってもらい、その方向性を作っていくっていうのをみんな考えていけるかなっていうふうに、今日話を聞いて思いました。

湊市長

なるほど。はい、わかりました。なんかこの話題3について、何か他に皆さん、特にあれですか。せっかく、はい。

小坂委員

少人数で育った子どもたちは、児童会の役員とか、様々な面で校内で活躍する機会が大変多くて、自分の自己優越感が非常に高い子供が育ちます。そして私のように、大人数の中で、できればすみっこでって、手を上げないで、話をしないでっていう育ち方が結局できないですね、5・6人の学級の中だと。そういう子供たちは経験を積みながらお話の仕方も上手になり、発言する声の大きさも、大きくなりということで、現在の個別最適化の指導するには少人数の方が良い場面もとても多いですね。大人数の良さで少人数の良さを上手に、それこそハイブリッドな教育ができるような、カリキュラ

ムが組めれば、それこそ大きな学校の40人に近いクラスにいる子供たちは15人くらいのところでホッとするような経験をさせることも大事ではないかと感じています。以上です。

湊市長

はい。ありがとうございます。他にあれですか、特に大丈夫ですか、はい。

それでいいですか、教育長、なんか全体。まあ、この話題の後でちょっと。

秋山教育長

実はですね、教育委員の中でって、教育委員会の中でもここまで、つっこんでこう話をする機会ってそんなに多くはないんです。今日はやっぱりいろんなことを考えさせられたし、すごくよかったなあというふうに思います。で、教育が教育だけでは絶対なくて、やっぱり市の中の一つの大きい流れとして、この市をどう持っていくかも含めて、あの子たちの未来どうなるかも含めて、やっぱり市民みんなが、やっぱり同じ考えでできれば行きたいところだと思いますんで、市長さんからいろんなお話をいただきながら、それをどう教育委員会の方で活かしていくかって、今後、本当に一生懸命考えていきたいと考える。

湊市長

はい、ありがとうございます。そうすればですね。まず話題提供の1・2・3について色々とお話、議論でもないんですが、やりとりは以上で終わらせていただきたいと思います。

そうすると、その後ですが、次、大きな4番ですね。その他について、まあこの話題提供に関わらずですね、もしいろいろと皆さんの方からご意見だとか、ご質問等々、何かあれば、お話を頂きたいと思いますが、これは順番ってことではなくて、誰ってことはなくて、特にないなければならないで結構ですから。じゃあなんかあれば。急ですね、そうですね。いや、なければなくてはあれですけど。ね、そうですね、わかりました。はい。

佐藤教育長職務代理者

すみません、今市長は、ゆりほんTVとそれからユーチューブにあげられておまして、私もゆりほんTV直接見れなくても、ユーチューブ等で見ることができるんです。情報発信としてすごくいいことだと思いますので、例えば教育委員会の中に関しましても、ある程度分かる範囲はそちらで、報告も兼ねて流していただければ、広く市民の方にも、また市外の方からもいろんな意見がいただけるんじゃないかと思うので、ぜひ活躍と活用お願いしたいと思っております。

湊市長

はい。

ありがとうございます。わかりました。はい、すみません。はい。

桑山委員

今日はとてもいい機会だったと思います。ありがとうございます。それで、教育関連予算を随分とっていただいたと、特にICT関連につけて、本当にありがとうございます。もし教育の方に、もっと力を入れていただければ、市独自ですね、少人数学級、今やっていますけど、先ほどから少人数クラスの良さっていうことが随分出ましたので、その辺をまたお願いできたらと思います。また、教職員の資質向上っていう面でもですね、教職員には豊かな人生経験を積みながら、それを子供に教育にその教室の中で還元していただくって、教師の人格って言いますか、教師のそういった学習要項に基づいた教科学習のほかの教師の面を子供が見ることっていうのが、とてもあの大事なことではないかと思うんです。具体的に何を言いたいかというと、僕は学校の先生方には、感動体験をぜひたくさんしていただきたいと。昔、考えたのはですね、そういう演劇であれ、そういった芸術鑑賞の機会を得ることについて若干ですね、補助があれば、それを認めてくれるっていう。例えば、音楽会とかですね、あるいは舞台芸術のまあ、音楽であれ、なんであれですね。そういったところに積極的に参加することで、その鑑賞にかかってですね、入場券の半額でもですね。市の方が補助しますよとかですね。そういった学校の先生方にはぜひ、人間としての素養を磨いていただくようなことを市が応援しますよということですね。そういった感動体験に対してなんらかの補助があれば先生方励みになるんじゃないかなあ、なんてことも考えたことがありましたので、この機会にちょっとお話しさせていただきました。

湊市長

はい、ありがとうございます。はい。

高橋委員

なんか今日は話しやすい雰囲気だなと思って。

すいません、私が桑山先生の話とも関連するんですけど、私やっぱり学校訪問行って、最近ウズウズしてしょうがないのは、やっぱり背中見てるだけで私ちょっと物足りなくてですね。生徒の前でこう感動体験ではないですけど、うん、なんかこうキャリア教育的なことを話したいなというふうに思ってます。今度、そういう方向にちょっと学校に声をかけていこうと思ってるんですけど、それと、やっぱり学校、お金がないですよ。で、お金を出すさっきの話と矛盾するので、そういうことじゃないですよ。まあ、私そういう活動

をちょっとやっぱライフワークというか趣味で、今後やっていきたいと思ってまして。例えば3年後とかですね、5年後とか、なんかそれがこう息づいてきて、こいつに予算をつけてもいいなと言うふうに思えるぐらいまで私頑張りたいと思っています。ほかの行政でも結構全国的に見ると弁護士派遣とか法教育的なことに予算を取っているところもあるのでぜひ私もそういうところを目指して、草の根活動やっていきますので、まあ、決意表明でございます。

湊市長

はい、ありがとうございます。はい、他にあれですか、特にあれですか、特に大丈夫ですか。はい、まあ、今はその他ということでした。まず私も情報発信ですね、いろいろこれからもやっていきたいというふうに思いますので。精一杯ですね、もういっぱいいっぱいになりながらやってますけど、頑張りたいと思います。今の先生の資質向上とか豊かな体験とか本当大事だなあっていうふうに思っています。いろいろなそういった機会を先生たちが受けるようなことも少し考えてみたいと思います。

また、先ほど決意表明ありがとうございます。いろいろ予算もやっぱりないなかでお力添えいただける場面があるかもわかりません。どうぞよろしくお願いします。そうすれば皆さん、特にその他無いようあれば、本日の教育会議ということですね、終わらせて、本当、私も大変勉強になりましたし、すごくいい機会をいただいたなと思ってます。まあ今日これで終わりではなくてですね、この後もまた何かまたあればですね、声掛けさせていただく、お集まりいただく場面がまたあるかもわかりませんし。いろいろとこの後もまずお力添えいただければありがたいなというふうに思いますので感謝申し上げます、進行は終わってですね、事務局の方に戻したいと思いますので、大変ありがとうございました。

遠藤総務課長

皆様には3つの話題提供のほか、その他も含めましてたくさんの活発な意見交換いただきましてありがとうございます。市では、今後とも教育委員会の方と連携をしまして、未来の本市を担う子どもたちのより良い教育環境の充実を図ってまいりたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。それでは以上をもちまして、令和4年度総合教育会議を終了致します。本日はありがとうございました。

【閉会 午後3時45分】